

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023年 *11*月

「神のむすこ娘たち」「兄(III)」「どのように違いを認めるか」「ナスと大葉の炒め物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「兄(Ⅲ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

8

Sons and Daughters of God

現代の真理

「キリストが戸をたたいておられる(VI)」

39

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「ナスと大葉の炒め物」

44

レシピ

お話コーナー

「最初のあやまち(Ⅱ)」

46

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2023年10月5日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

自然および神との交わり

「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。このゆえに、わたしの心は楽しみ、わたしの魂は喜ぶ。わたしの身もまた安らかである。…あなたはいのちの道をわたしに示される。」(詩篇 16:8-11)

「救い主の地上生活は、自然や神とのまじわりの生活であった。そして力強い生活の秘訣を、このまじわりによってわたしたちにお示しになったのである。

イエスは熱心で忠実な働き手であった。彼ほど重い責任を負った人間はまだかつてなかったし、世の悲しみや罪のあれほど重い荷を負ったものもない。…しかもキリストはいつも健康だった。…

キリストは自然界の中で楽しみを見だし、自然の神秘を理解しようと求めては知識を増して行かれた。彼は神のみ言葉を研究されたが、一番幸福なときは、働き場から離れて野にゆき、静かな谷間で瞑想したり、山腹や森の木々の間で神とまじわることでできるときだった。早朝どこか人の居ない所で、瞑想したり聖書をしらべたり、あるいは祈りをしておられることがよくあった。…

伝道中もイエスは多くの時間を屋外で過ごされた。ここかしこへの彼の旅は、徒歩で行かれ、その教えの多くは戸外でなされた。…

キリストは緑したたる丘や、湖畔で青空を上に仰ぎながら人々を自分の周囲に集めることがお好きだった。…

終日キリストは自分の所に来る人々に奉仕し、夕方あるいは早朝、天父とまじわるために、山の聖所に行かれた。…彼は毎朝幾時間もひとりで神とまじわっては、天の光を人々にもたらされた。…

弟子たちが福音の使者として成功した喜びに満たされて帰ってきたとき、パテスマのヨハネがヘロデに殺されたという知らせが届き、彼らはひどい悲しみと失望におそわれた。…「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行つて、しばらく休むがよい」と仰せになったとき、彼ご自身の目にも声にも涙があった(マルコ 6:31)。…

イエスがただ愛する者たちとだけで過ごされたのはつかのまだったが、そのしばらくのひとときが、彼らにとってはどれほどとうとかったことだろう。彼らは福音の働きについて語りあい、…イエスが真理の宝を示されると弟子たちは、神の力によって活気づき希望と勇気を吹きこまれた。

他を益するために全く献身した生活を送られた救い主は、たえまない活動や人間の必要に応ずることから離れて、天父と何のさまたげもなくまじわる必要を感じられた。…キリストは山に行つてただ神とのみまじわり、…人々のためにその魂をそそぎだして祈られるのだった。…

神に訓練されている者はすべて自分自身の心や自然や神とまじわる静かな時が必要である。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 3 章「自然および神と共により」)

聖書の教え

兄(Ⅲ)

チャンプリンのコメントです：

「彼は物語の中で短く、しかし理解できる言葉で語られていますが、一般的な喜びにあずかることができませんでした。なぜなら、彼は傲慢で、無神経で、律法主義的で、憎しみ深く、軽蔑的で、彼自身の目には正しく、一般的な人間の同情心にまったく欠けていたからです。彼は自分の仕事をきちんと時間通りにこなし、他人より優れていると自負していました。だれも、何かの発言やスキャンダルで彼の評判を汚すことはできませんでした。なぜなら、そのような者は彼にふさわしくなかったからです。しかし、彼は愛と恵みを何一つ知らず、その心は憎しみで満たされていました。彼は自分では気づいていませんでしたが、心のうちでずいぶん遠く離れてしまっていました。そして彼は自己吟味や悔い改めに至る必要はまったく感じたことがありませんでした。

彼は非常に怒っていました。ここで使われている原語のギリシャ語は、単に突発的な怒りの爆発ではなく、永続的で深く根を下ろした気質を示している。彼の態度はもちろん、主イエス・キリストが一見エリート階級を形成していたユダヤ人の宗教指導者たちを無視しながら、貧しい人々や遊女、世人や取税人に奉仕することに対して異議を唱えた彼らの態度を暗示しています。イエスの敵対者たちは、イエスのこの言葉にするどい痛みを感じたに違いありません。

「兄は愛を脇に置いたが、そしてそれはあたかも正当な裁きによって彼が愛によって脇に置かれたかのようにであった(エリコット、本文中)。一家の父親は、長男が祝宴に出席できるように心を和らげるように論じ続けたが、兄はただ自分を哀れみ、自分の忠実な働きが注目されず、報われなかったと考えました。今や兄が『失われた』息子でした。なぜなら、彼は同情ももたずにその距離を旅し、墓場に近づいただけだったからです。兄は親への気持ちを失っていましたが、今、胸に抱いていた偽善をあらわにしたのです。」『新約聖書解釈』第2巻、156ページ。

教育者エレン・G・ホワイトは、この点について重要な考察をしています：

「兄は、自分のみにくい忘恩の精神に気づいたことであろうか。弟は、どんなに悪いことをしたとしても、なお、自分の弟であることに変わりがないことを悟ったであろうか。兄は、そのねたみとがんこさを悔い改めたであろうか。それについて、キリストは何も言われなかった。なぜなら、このたとえは、なお現実に演じられていたからである。そして、その結末は、聴衆のこれからの決定いかんにかかっていたからである。

この兄は、キリストの時代の悔い改めないユダヤ人を代表していた。そして、また、いわゆる取税人や罪人を軽べつするところの各時代のパリサイ人をもさしている。彼らは、自分たちが、ひどい罪におちいついていないと言って、自分を義とする精神に満ちている。キリストは、これらのとがめ立てする人びとに対して、彼らの側に立ってお語りになった。たとえの中の兄のように、彼らは、神からの特別の特権にあずかっていた。彼らは、神の家の子であるとなえてはいたが、実は雇い人の精神をもっていた。彼らは、愛の動機からではなくて、報酬を望んで働いていた。神は、彼らの目には、きびしい主人と思えた。彼らは、キリストが取税人や罪人を招いて、恵みのたまものをおしみなくお与えになるのを見た。ところがこれは、ラビたちが、難行苦行によってのみ与えられることを願っていたたまものであったので、彼らはここでつまずいた。放蕩むすこが帰って来たということで、天の父は喜びに満ちておられるのに、彼らの心には、ただしつとの思いが起こるばかりであった。

たとえの中で、父が兄をいさめたことは、パリサイ人に対する天のやさしい訴えのことばであった。「わたしのものは全部あなたのものだ。」それは報酬ではなくて、たまものである。それは、放蕩むすこと同じようにしてもらえるものである。わたしたちもなんの功績もなく、天の父の愛のたまものとしてのみ、受けることができるのである。

自分を義とすることによって人は、神を誤り伝えるばかりでなくて、兄弟を冷たく批判するようになる。利己的でしつと深い兄は、ことごとくに弟に目をつけて、その行動を批判、ほんのさ細なことまで非難した。兄は、あらゆるあらさがしをして、責めとがめた。こうして、兄は彼が許し得ないことを正当化しようと努めた。

今日も同じことをしているものがたくさんいる。魂が、人生における最初の誘惑の大水の中で苦闘しているのを、彼らは、かたくなな態度でかたわらからながめて、つぶやき責める。彼らは、神の子であるとなえても、サタンの精神をその行動にあらわしている。これらの兄弟を訴える人びとは、兄弟に対する彼らの態度によって、神が彼らに祝福を与え得ないところに自分たちをおくのである。

「わたしは何をもって主のみ前に行き、高き神を拝すべきか。燔祭および当歳の子牛をもってそのみ前に行くべきか。主は数千の雄羊、万流の油を喜ばれるだろうか」と絶えずたずねている人が多い。「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」(ミカ書 6:6-8)。

「悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折る、…自分の骨肉に身を隠さないなど」こそ、神の喜ばれる奉仕なのである(イザヤ書 58:6,7)。あなたが、自分は、ただ天の父の愛のみによって救われた罪人であることを認めたときに、罪になやむ人びとをやさしくあわれむことができる。そして、あわれな人や、悔い改めた人を、ねたんだり、責めたりしなくなる。利己という氷が、あなたの心からとけ去って、始めて、神の心と一つになり、失われた者の救いを神と共に喜ぶようになるのである。

確かに、あなたは、自分が、神の子であると表明している。もしそれが事実であるなら、

「死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」のは、「あなたの弟」である。神が、彼を子としてお認めになるのであるから、彼はあなたと最も密接な関係によって結ばれている。このような関係を拒むならば、それはあなたが神の家族の子ではなくて、雇い人であることを示しているのである。

たとえ、あなたが失われた者を迎えなくても、その喜びの宴は続けられる。そして回復されたものは、天の父のそばに座し、天の父の働きにあずかる。多くゆるされたものは、多く愛するのである。しかし、あなたは、外の暗きに出されるであろう。「愛さない者は、神を知らない。神は愛である」(ヨハネ第一 4:8)。(キリストの実物教訓 189-191)

たとえ話の中で、あなたはどの人物に共感しますか？律法学者やパリサイ人ですか？それとも、キリストの前で心地よさを感じた、悔い改めた取税人や罪人たちに共感しますか？あなたは家庭や教会で、はぐれた羊や失われた銀貨になっていませんか？父の家に戻った放蕩息子のように、あるいは弟の帰還に腹を立てた兄のように振る舞っていませんか？

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ 11:28-30)。

「父がわたしにお与え下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない。」(ヨハネ 6:37)

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神に委ねるがよい」(ペテロ第一 5:6,7)。

「ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである」(ペテロ第二 3:9)。

「わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。神はこう言われる、『わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた』。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である」(コリント第二 6:1,2)。

「…わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ」(ヘブル 2:3)

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



11月

私たちはたえず前進する

あなたの能力を増すよう絶えず求める

「これは、主が知恵を与え、知識と悟りとは、み口から出るからである。」(箴言 2:6)

あなたは思いと魂における最高の教養を、たえず求める必要がある。それによって、子供たちの教育と訓練に心穏やかな精神、情愛の深い心を持ち込むことができ、また子供たちに純潔な向上心を吹き込み、物事に対する正直と純潔と聖潔を愛する心を養うことができるためである。……教訓と模範によって家庭で完全なまた徹底的な働きをすることができるためにあなたの能力が増し加わるようたえず求めなさい。レビュー・アンド・ヘルド 1891年 9月15日

あなたは自分の好みに従ってはならない。どんなことにも正しい模範を示すよう細心の注意を払おう。不精になってはならない。眠っている力を目覚めさせなさい。…どうしてもしなくてはならない仕事を引き受けなさい。平凡で面白くないありふれた、しかし家庭生活の上で最も必要な仕事をどうしたらできばきとやっていけるか研究してみなさい。家庭の教育 63,64

親たちはキリスト教教育の驚くべき力をまだ十分に理解していない。採掘しなければならぬ真理の鉱山が不思議にも今までなおざりにされてきた。神はこのように不注意な無関心をお受け入れにはならない。両親方、神はあなたがたが目目薬を塗って、この問題をよく見るよう求めておられる。あなたがたはまだ表面をかすめたにすぎない。長い間なおざりにしていた仕事にとりかかりなさい。そうすれば神はあなたがたに協力して下さる。心をこめて仕事をしなさい。そうすれば神はあなたがたが進歩するよう助けて下さる。家庭生活に福音を持ち込むことから始めよう。家庭の教育 62

思想に純潔と高尚さを与え、言葉と行動に霊的な香りを与える気高い魂の教養は注意深い勤勉な努力を要求する。主の庭からあらゆる悪い動機を抜き去るには忍耐がいる。原稿 128,1901年

健康的な習慣を発達させることにより 神に栄光を帰す

「あなたがたは代価を払って買いとられたのだ。それだから、神のものである自分のからだと精神をもって、神の栄光をあらわしなさい。」(コリント第一 6:20 欽定訳)

神と同胞とに対する私たちの第一の義務は、自己開発という義務である。創造主が私たちに与えてくださったすべての能力は、私たちが自分たちにできる最大限のことをすることができるように、最も完全にまで伸ばさなければならない。であるから体と心の健康を築き、保つために用いられる時間は、正しい用いられ方をされている時間だと言える。家庭の教育 425

人は気高く聖なる目的のために創造された神の作品、その傑作である。だから人という幕屋のあらゆる個所に、神はご自分の律法を書き記したいと望んでおられる。……あらゆる神経、筋肉、また精神的身体的天賦の才能は、純潔に保たなければならない。

神は、身体がご自分のみ霊の宮であるようにと計画しておられる。あらゆる魂の上に置かれた責任は厳粛である。あなたの個人的な影響力は良きにつけ悪しきにつけ及んでいる。あなたが体を汚すならあなたは自分自身を損なうだけでなく、他の多くの人も損なうのである。クリスチャンは神に対して、精神を汚すすべてのものから離れている義務がある。なぜなら彼らは価をもって買われたからである。……

男女はだれも思いや体の機能の一つといえども、その健全な活動を減らすような習慣を形造る権利はまったくない。……タバコやお酒にふけている人々は自分の知性を正しく判断しない。彼らは養い発達させるようにと、神が自分に与えて下さった能力の価値に気がつかない。このような人々は自分の力が、弱まり衰えるままにする。神はご自身を信じるすべての者が、向上の必要性を感じるよう望んでおられる。委ねられたあらゆる能力は、大きくするべきである。一つの賜物といえども捨ててはならない。神の畑、建物として、人は言葉のあらゆる意味において神の監督のもとにあるので、人が自分の造り主を知れば知るほどその生涯はますます神に捧げたものとなる。原稿 130,1899 年

たえず注意を払うべき神の宮

「わたしたちは生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。』」（コリント第二 6:16）

私たちは自分にできるかぎりのことをして神の王国の律法に従わなければならない。自分が神の財産、神の建物であることを覚えつつ、自分という存在の最高の能力を熱心に養わなければならない。私たちは日々成長するよう求められている。たとえ罪と悲しみのこの世にあっても、私たちは熱心な忍耐強い努力によって、霊的能力の最高状態にまで上ることができる。…私たちは神を喜ばせるべきであり、これができる。なぜなら、エノクは墮落した時代に住んでいたけれども神を喜ばせたからである。今日にもエノクはいる。

人間という家、神の建物、その宮は綿密な用心深く注意深い保護を要する。私たちはダビデと共に、「わたしは恐るべく、くすしく造られました」と叫ぶことができる。神の作品は、維持されるべきであって、それは男女が生ける神の宮であることを全宇宙と背教した民に示すためである。

神が要求しておられる品性の完全は聖霊の内住される宮として、全人格を準備することである。主は人間の全機能を完全に捧げることを要求される。この方は男女が到達することのできるようとして下さったすべての状態になることを望んでおられる。全存在のある部分だけを用いるのは十分ではない。全器官が行動を起さなければならない。さもないと奉仕は欠陥のあるものとなる。

身体は注意深く教育し、養い、発達させなければならない。そうすれば男女を通して、神性を完全にあらわすことができるからである。神はご自分がお与えになった知性を人が用いることを期待しておられる。人がご自分のためにあらゆる判断力を用いることを期待しておられる。人は良心に最上位を与えなければならない。愛情豊かな精神力と身体の力が十分に養われれば、最高の能力にまで達することができる。原稿 130,1899 年

神は私たちが最上のマナーを持つよう 望んでおられる

「まちがってはいけない。『悪い交わりは、良いならわしをそこなう。』」(コリント第一 15:33)

キリストの宗教は受け入れる者を決して墮落させたり、下品にしたり荒々しく無礼にしたりはしない。手紙 134,1901 年

私たちが主の宮殿にふさわしい者とするためにはするべきことがたくさんある。荒々しい精神、下品な言葉、軽々しい性格などは捨て去らなければならない。さもなければ天の織機で織られた衣、すなわちキリストの義を着ることは決してできない。…

キリストの教育のもとで最高点にまで到達できる者は、より高度な学校に備えて、神の与えられるあらゆる進歩を自分のものとする。しかし、自分の品性が神に似た者に形造られるのを望まない者は天使を悲しませる。その罪深い習慣や慣習に執着することによって、神のご計画を台無しにするからである。ビュー・アソド・ハルド 1899 年 7 月 4 日

神に対して、またお互いに礼儀正しくしなさい。神は、あなたが最上のマナーを持つことにより、世の人々の前でご自分に栄光を帰すことができるようにと望んでおられることを覚えていなさい。このお方はあなた方が互いに一致し、愛し合うことを望んでおられる。あなた方がこの世で互いに愛し合うなら、永遠にわたって贖われた人々と共に住むということ覚えていなさい。原稿 21,1903 年

利己心と自尊心はイエス・キリストと私たちを霊的に結びつける純潔な愛を妨げる。この純潔な愛が本当に養われるなら有限な者は有限な者と混ざりあい、すべての者が無限のお方のうちに集中する。人性は人性と結びつき、すべては無限の愛である方の心に束ねられる。互いに対する清められた愛は清い。この大いなる働きの中でクリスチャンの愛、すなわち、以前に見られたよりももっと気高く、不断の礼儀正しい無私の愛はクリスチャンの優しさ、慈悲深さ、礼儀正しさを保ち、神が人間の権利を授けてくださった威厳を感謝することによって、神の抱擁のうちに人類同胞を包む。クリスチャンはこの威厳を、神をあがめ、神に栄光を帰すために養わなければならない。手紙 10,1897 年

私たちは神の息子、娘として、自尊心や尊大さが場所を占めることのない品性の意識的な威厳を持つべきである。ビュー・アソド・ハルド 1888 年 3 月 27 日

賢くふるまう

「わたしは全き道に心をとめます。…わたしは直き心をもって、わが家のうちを歩みます。」(詩篇 101:2)

だれも生意気であったり、押しつけがましくするのではなく、ただ神の栄光にだけ目を向けて、自分の宗教を静かに現実のものとし続けるべきである。……その時私たちは雑音やあつれきなく、世の光として輝く。だれも失敗する必要はない。勧告は賢明で、働きは卓越しており、その計画を成就するのに力強いお方が共におられるからである。このお方はご自分の代理者、目に見える者と見えない者、人間とみ使いを通して働かれる。この働きは広大なものであり、もしこの働きにたずさわる者がみな、その働きを自分の信仰告白にふさわしいものとするなら、この働きは神の栄光のために前進するのである。他の人々に感化を及ぼす働きになくしてはならないものとして思想の純潔を大切にしなければならない。魂は純潔で聖なる雰囲気それを吸うすべての人の霊的生命を活気づけるのに役立つ雰囲気に囲まれていなければならない。

イエスはご自分に従っていると公言する人々の言葉や態度によってあがめられもし、辱められもする。心は純潔にまた聖なるままに守らなければならない。命の泉はこれから流れ出るからである。心が真理に対する従順を通して清められているなら、利己的な好みや墮落した動機は存在しない。偏見や偽善はないのである。……

若者だけではなく、年配の経験ある人々が道徳的にゆるんでいる今の社会情勢では、軽率になり、自分の気に入ったことに特別注意を向け、そのようにして羨み、妬み、悪い推測をするようになる危険がある。けれども、自分が利己的な思いや感情をもち、愚かな無駄話をすることによって神のみ霊を追い払っていることに気づいている者はほとんどいない。キリストの恵みが心に植えつけられ、良い土にその根が深くおりにいくなら、彼らはまったく違った品性の実を結ぶであろうに。……神の改変する力だけが心のうちに純潔な原則を打ち立てるのに十分であり、それによって、悪者も、悩ますために何も見出すことができなくなる。……言葉の純潔と真のクリスチャンの礼節をたえず実践する必要がある。手紙 74,1896年 p91

神の憐れみは私たちを守り、高められる

「主よ、あなたのあわれみをわたしに惜しまず、あなたのいつくしみとまことをもって常にわたしをお守りください。」(詩篇 40:11)

キリストの宗教は生活を高められた標準へ引き上げる。神のみ霊による内なる働きは、神の憐れみと慈しみを私たちに幾分か理解させることによって人間の自尊心をくじく。……あなたが自分の無能さに気づき、熱心に懇願しつつ、「主よ、あなたのあわれみをわたしに惜しまずあなたのいつくしみとまことをもって常にわたしをお守りください」と言いながら、あなたの力の源を見るなら、あなたは光を得る。

あなたが光の通路に自分自身を置かないなら、主がそのいつくしみによってあなたを守り、そのまことによってたえずあなたを守るという信仰をあなたは持つことができない。だから悪い仲間を避けて良い友を選びなさい。心に播かれた真理の種が育つためには、義の太陽の輝く光を受けなければならない。芽を出し、成長しない真理の種はまもなく生長する力を失い枯れる。しかし悪い習慣という雑草は生えてきて繁る。愛、喜び、忍耐、礼節、柔和、謙遜という尊い植物が育ち、向上するためには、注意深く養われなければならない。

若い友人方、表面だけの敬神で満足するのではなくイエス・キリストの恵みと知識のうちに成長しなさい。あなたは進歩しているだろうか。恵みという植物は木になっていつているのだろうか。それともしおれていつているのだろうか。謙遜になって、たびたび恵みのみ座の前に出てイエスにあなたのあらゆる必要を申し上げなさい。そしてどのようなことでも、このお方にとって気づくのに小さすぎるものがあると考えてはならない。主はあなたがご自分を求め、子供が親に話したがるように、あなたの試練をご自分に話すことを喜ばれる。あなたが祈る時、イエスはあなたの祈りを聞いてあなたがお願いしたことをして下さると信じなさい。あなたがイエスを完全に信頼していることを示しなさい。そしてこのお方を喜ばせることだと知っているそのことをしようとすることによってあなたはキリストのうちに平安を持つことができる。ユース・インストラクター 1893年2月9日

神の慈しみに飾られる

「わたしは一つの事を主に願った、わたしはそれを求める。わたしの生きるかぎり、主の家に住んで、主のうらわしきを見、その宮で尋ねぎわめることを。」(詩篇 27:4)

啓発された力はすべての人にとって手の届くところにある。神の指導のもとに人は朽ちることのない清められ、高められ、気高くされた思いを持つことができる。キリストの恵みを通して人の思いは創造主なる神を愛し、ほめたたえるのである。

主イエスはみ父をあらわすためにこの世へこられた。…キリストはみ父の本質の真の姿であって、人が墮落はしても、神の戒めに従うことによってその姿と品性を刻んでいただける者になるために、神の道徳上の姿を人のうちに回復するためこの世に来られた。原稿 24,1891 年

神は、子らが人工的な飾りではなく、品性の美しさや、心を喜びと幸福ではぐませる親切心や愛情という魅力で美しいことを望まれる。ⲕⲁⲓⲗⲁ ⲁⲓⲛⲁⲓ 1877 年 12月6日

女性の真の魅力は容姿の美しさとか、なんらかのたしなみを身につけているとかいうことだけにあるのではなくて、むしろ柔和でおだやかな精神、忍耐、心の広さ、親切そして他の人々のために喜んで尽くし、耐えることのうちにあるということ。これを女の子たちに教えてやらねばならない。女の子たちは、仕事をする事、何か目的をもって学ぶこと、目標をもって生活すること、神に信頼し神をおそれること、そして父母を敬うことを教えられねばならない。そうすれば、年と共に少女たちはいつそう清らかな心をもって育ち、自主的で、人々から愛される者となっていく。このような女性を墮落させることはできない。多くの人々を滅ぼした試練や誘惑を彼女は免れる。家庭の教育 134

キリストは私たちの模範として送られたのであるから、私たちはこのお方の愛と寛容と……魅力をすべて持っていることを示さないのだろうか。そうすればイエス・キリストの愛が私たちの品性と生活を占めて、私たちの会話は清らかなものとなり、私たちは天の事柄を深く考えるようになる。原稿 7,1888 年

聖なる宮のために磨かれた荒い石

「このキリストにあつて、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、」
(エペソ 2:21)

キリストの恵みを通して、あなたはあらゆる冷たい、荒々しく不快で、礼儀をわきまえない方法やマナーを克服するために、断固とした努力をする。……

真理の力強い剣が、あなたを世という石切場から切り出した。あなたは角がぎざぎざした荒い石、接触する人をだれでも傷つけ、損なう石であつた。荒い角をなめらかにするためになすべき働きがある。あなたが、神の仕事場でなされるべき働きの価値を正しく評価するなら、斧や槌で打たれるのを歓迎するであろう。あなたのうぬぼれは傷つけられ、自分を高める意見は、斧や槌で切り取られ、あなたの品性の荒削りはなめらかにされる。そして自己と肉欲の傾向が、取り去られるなら、その時、石は天の建物に釣り合ったものとなり、それから磨き、精錬し、屈伏し、光沢を出す工程が始まってあなたはキリストの品性の型にしたがつて形造られる。キリストご自身のかたちが、人間の磨かれた品性の中に反映し、石が天の建物にふさわしいものとなるためである。……

もし私たちがより良い男女にならなければ、もっと親切な心を持ち、もっと憐れみ深く、礼儀正しく、寛容と愛にみちていないなら、また、世に対して憐れみの伝道でイエスが導いた愛を、私たちが他の人々にあらわさないなら、私たちは世に対するイエス・キリストの力についての証人ではない。イエスをご自身を喜ばせるために生きられなかった。……このお方は接するすべての者を高め、気高くし、幸福にするために来られた。…決して無礼な態度をとらず、失礼な言葉を口にされることはなかった。ユース・インストラクター 1895年1月3日

自分の品性を美しいものに構成するのは、あらゆる若者の特権である。…この上なく熱心に主を求めなさい。そうすれば、あなたはますます精錬され、霊的にますます磨かれた者となることができる。ユース・インストラクター 1910年1月25日

知性のあるクリスチャン—ヨセフ

「主はヨセフと共におられて彼にいつくしみを垂れ、獄屋番の恵みをうけさせられた。」(創世記 39:21)

ヨセフは、エジプトに売られた自分の身を自分にふりかかった最大の災難と見なしていた。しかし、父の愛で守られていた時には、したこともなかったほど、神を信頼する必要を彼は知った。ヨセフは自分と一緒に、神をエジプトへお連れした。そしてその事実、悲しみの最中であつての彼の礼儀正しい態度で明らかであつた。神の契約の箱がイスラエルに安息と繁栄をもたらしたようにこの神を愛し、神を畏れる若者はエジプトに祝福をもたらした。このことが非常に目立つ方法であらわされたので、ヨセフの仕えていた主人ポテパルは自分の祝福をみな自分が買った奴隷のゆえだと認めた。ユース・インストラクター 1897年3月11日

ヨセフの宗教は彼の感情を穏やかに保ち、あらゆる試練にもかかわらず、彼の人々への思いやりは常に暖かく強いものであつた。自分が不当に利用されたと感じる時、その言行は不機嫌で狭量になり、意地悪く無作法になる人たちがいる。彼らは落胆して他の者を憎むようになる。しかし、ヨセフはクリスチャンであつた。獄屋生活に入るや否や、彼は自らのキリスト教的原則を実行して輝かせた。自らを他の人たちの役に立つように始める。彼は仲間の囚人のもめごとを仲裁する。彼は知性のあるクリスチャンなので、快活である。この懲罰の下に、神は大きな責任、尊敬と有用性を担う状況のために彼を準備しておられた。彼は学ぶことをいとわなかつた。彼は主が教えようとおられる授業を喜んで受けた。彼はその青年期に、重圧に耐えることを学んだ。彼はまず、服従を学ぶことによって、自らを治めることを学んだ。

陰うつな獄屋の場面でヨセフが演じた役割が、ついに繁栄と名声を手にするまでに彼を引き上げた。誘惑と逆境、困難によって、彼を高い地位に備える経験を積ませることが、神のご計画であつた。ヨセフはどこへでも自分の宗教を携えて行つたが、これが彼のゆるぎのない忠誠についての秘密であつた。SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 卷 1097

アブラハムは無我の礼節を示した

「全地はあなたの前にはありませんか。どうかわたしと別れてください。あなたが左に行けばわたしは右に行きます。あなたが右に行けばわたしは左に行きましょう。」(創世記 13:9)

アブラハムの一族は千人以上の人々から成っていた。アブラハムの教えによって、真の神を礼拝するよう導かれていた人々は、彼の陣営の中に自分たちの居場所を見出ししていた。学校のように、ここで彼らは、信仰の代表者となるための準備として教えを受けた。子供たちや一族に対するアブラハムの愛情は、彼が、彼らの宗教上の信仰を守り、彼らにそして、彼らを通して世に伝えることのできる最も尊い遺産として神の掟についての知識を彼らに分け与えるよう導いた。すべての者は、自分たちが天の神のご支配のもとにあることを教えられた。両親の側に圧制はなく、子供たちの側に不従順があるべきでもなかった。神の律法は一人一人にその義務を指し示しており、それに従順であることだけが、幸福と繁栄を確かなものにするのであった。

日々の生活における静かな感化であるアブラハム自身の模範が、たえまのない教訓であった。確固たる清廉、諸王の称賛を勝ち取った慈悲深さと無我の礼節が家庭であらわされた。彼が天と結びついているということをすべての人にあらわす命の香り、品性の高潔さと麗しさがそこにはあった。彼は最も身分の低い僕の魂も粗末にしなかった。彼の一族には主人のための掟や僕のための掟は一つとしてなく、裕福な者のための王道や貧しい者のための他の道もなかった。すべての者は正義と同情をもって取り扱われた。原稿 22,1904 年

アブラハムは信仰の人であり、常に最も厳格な清廉という原則に従っていた。仕事上のあらゆる取り引きにおいて、彼は礼儀をわきまえ高潔であった。彼の生活はクリスチャンの礼儀正しさに支配されており、王に対する奉仕を他のすべてにまさって位置づけていた。彼は純粋なクリスチャンの原則から髪の毛一筋ほどもそれようとしなかった。手紙 203,1903 年

真のキリストのような礼儀正しさを実践するのはあらゆる人にできることである。原稿 19,1892 年

靈性が増すときに能力も増す

「この四人の者には、神は知識を与え、すべての文学と知恵にさとい者とされた。ダニエルはまたすべての幻と夢とを理解した。」(ダニエル 1:17)

多くの人々の無知は自発的なものであり弁解の余地はない。世界総会冊子 3d、1900年

ある若い人々は……自分たちの能力を向上させない。彼らは正確に読んだり書いたりしたいとは思いますが、卓越するには非常な努力を要するので、その努力を払おうとはしない。彼らを見ると一人の若者のことを思い出す。彼の父親は息子を学校におくって良い教育を受けるようにとあらゆる便宜を与えたが、彼は自分の父は一般教養を自分に与えることができたので、その教育で頭をわずらわせたくないと言って勉強するのを拒んだ。「彼は無知のままにいるだろう。学問に王道はないから」とあなた方は皆すぐに言うであろう。しかし、熱心な克己の努力をしないで、健全な宗教経験を望むというのは、同様に無益である。神の事柄についての自分の無知にため息をつくことが、決して救いに至らせる知恵をあなたにもたらすわけではない。イエスからは認のほほえみを決して得ることのない何万もの無精な涙とため息が天に向かって流されている。クリスチャン経験は自動的にあなたのところにやってくると考えてはならない。あなたが心に定めた何かをしようと決心する時、あなたは困難があってもあきらめず、何度も試みるのである。ユース・インストラクター 1884年1月30日

ダニエルと3人の仲間は聖霊の支配に自分たちを委ねていたので、よく調和がとれていた。この青年たちは、自分たちの宗教に関係のない才能、科学的才能、そして宗教上才能についての栄光をすべて神に帰していた。彼らの学識は偶然備わったのではなく、自分たちの能力を忠実に用いることによって知識を得たのであり、神が彼らに技能と理解力をお与えになったのである。手紙 56, 1896年

ダニエルの場合と同様に、靈的特徴が発達するのに応じて、知的な能力も同じ割合で増すのである。ビュー・アンド・ハラルド 1898年3月22日

主は、ダニエルと3人の仲間に協力されたように、ご自分の奉仕に忠実であろうと熱心に努力するすべての者に協力される。ユース・インストラクター 1903年8月20日

信仰のうちに新しい高さを求める

「神よ、しかが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ。」(詩篇 42:1)

若者の多くは……あらゆる雲の下に沈み、忍耐する力がない。彼らは恵みのうちに成長しない。……彼らの快樂を好む心は変わらなければならない。聖潔のうちにある美を見なければならぬ。そうすれば、しかが谷川の水を慕いあえぐようにその美を慕いあえぐようになる。…

あなたの歩みが主に命じられたものであるなら、若い方々よ、あなたの道が常に表面上の平和と繁栄の道であると期待してはならない。永遠へと導く道は、旅をするのに最も楽な道ではなく、時には暗くとげだらけに見えることもあるであろう。しかしあなたは神の変ることのないみ腕があなたを悪から守るために包んでおられるという保証を持っている。このお方は、あなたがご自分に熱心な信仰を働かせ、日向にいる時と同じく日陰にいてもご自分を信頼することを学ぶよう望んでおられる。……

鷲は自分の巣に帰ろうと努力するにあたって、しばしば暴風雨によって山々の狭い峡谷へと打ちつけられる。怒り狂った黒雲が、鷲とその巣を安全に守っている陽の当たる高い所との間にまたたく間に広がる。しばらくの間、鷲は途方にくれているように見える。濃い雲を追い払うかのように強い翼をはばたかせつつ、あちらこちらへと突き進む。……ついに暗闇を突き抜けて、上へ飛び上がり、一瞬の後に静かな日光が照る場所に現われる時、勝利の鋭い叫びをあげる。暗闇と暴風雨はすべて下の方にあり、天の光が鷲の周りに輝いている。高い絶壁にある愛する我家にたどりつき、鷲は満足する。鷲が光へ到達したのは暗闇を通過してであった。こうするには多大の努力を要したが、求めていた目的を手に入れて報われたのである。

私たちがキリストに従う者として獲得することのできる唯一の進路はこれである。私たちは、天の光から自分をへだてる厚い壁のような雲を貫く、生きた信仰を働かせなければならぬ。私たちには到達すべき信仰の高さがあり、そこにあるものはみな、聖霊の内にある平和と喜びである。ユース・インストラクター 1898年5月12日

靈的に成長すべきである

「兄弟たちよ、あなたがたに勧める。ますますそうしてほしい。」(テサロニケ第一 4:10)

あなたの前には、有限な可能性よりもっと高い可能性がある。人は神が言われた通り、神の息子である。「わたしたちは今や神の子である。しかし、私たちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現われる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。」安っぽい粗悪なものから離れて、高い標準、すなわち人に尊重され、神に愛される者へと上って行くのはあなたの特権である。

主が若い人々とすべての年代の人々にお与えになる宗教の働きは、主が彼らをご自分の子として尊重しておられることを示している。このお方は彼らに自制という働きを与え、贖いと救いという偉大な働きをご自分と分け合うよう、彼らを召しておられる。父親が自分の事業に、息子を共同経営者として入れるように、主もそのように、ご自分の子らを、ご自身と協力する者として下さる。

若い男女は日々の生活の中に、キリスト教の原則を持ち込むことができるよう、キリストの恵みをもっと必要である。キリスト来臨のための備えは、私たちの最高の特性を訓練するためにキリストを通してなされる準備である。……しかしそこには絶対にイエスに密接につながっている必要がある。イエスは私たちの力強さであり、能力また力であられる。私たちは一瞬たりとも自己に頼ることはできない。

若い男女の方々、神が与えて下さる光を物惜しみせず分け与えつつ、自分の能力を忠実に訓練しなさい。他の人々に平和と光と真理、また天の豊かな祝福を与えるには、どうするのが最善の方法かを研究しなさい。絶えず向上しなさい。より高い所へ達し続けなさい。永遠の現実をつねに視野に入れておくという能力は思いと体の力そのものであり、それが今価値あるものである。あなたが始めたその働きは勝利に勝利を得るまでやり抜きなさい。一つの目的のために自分自身を教育し、あなたがこのようにして神の栄光を反映しつつ、ますます大いなる善を成し遂げることできる最高の標準を心にとめていなさい。ユース・インストラクター 1910年1月25日

神は私たちの向上を制限されない

「主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、」(コロサイ 1:10, 11)

神は「あらゆる靈的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知る」人々の向上に制限を設けたりはなさらない。祈りを通し、用心深く、理解力に成長することを通して、私たちは「神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍」ぶのである。……

私たちに対する神のご計画は非常に広く、満ちみちて完全なので、その計画を推進するにあたって、このお方に誠心誠意協力する理由がことごとにある。私たちの側でためらう理由はなにもない。……私たちは神のみ言葉の大いなる宝庫から、日毎に新鮮な供給を受ける必要がある。これをするには、小説を読んだり、あらゆる良い働きのために啓発したり、強めることのない他のどのようなこともする時間はない。……天の富は神の子らの求めに応じる用意ができています。ビュー・アンド・ハルド 1906年10月4日

誘惑者は日々、あなたが自己に仕え自己を喜ばせるために何か紛らわしい最もらしい言い訳を携えて、あなたの行く手にいる。……自分の心を神に完全にささげている者、信仰によってイエス・キリストを自分の個人的救い主として受け入れている者は、靈的に活気にみちた敬神の念をもって目的に対する堅固さに、また自分の信仰の原則に対してどのような犠牲を払ってもよいという忠誠心に、安定した成長を示す。……

神はキリストの恵みによる完全さのうちにご自分のみ前を歩もうとしている誠実で熱心なあらゆる魂を是認し、誉れを与えられる。主イエスは、へりくだって震えている魂を、一人といえども決して放っておいたり、見捨てたりはされない。……私たちは鋭く聖別された直感力によって神のみ約束の力強さを認め、自分に価値があるからではなくキリストに価値があるので、個人的にそのみ約束をあてはめるのだろうか。私たちが正しいからではなく、生きた信仰によって私たちは自分のためにキリストの義を請い求めるのだろうか。原稿 125,1901年

新田を耕す

「あなたがたは自分のために正義をまき、いつくしみの実を刈り取り、あなたがたの新田を耕せ。今は主を求めべき時である。主は来て救を雨のように、あなたがたに降りそそがれる。」(ホセア 10:12)

真理の原則が私たちの品性と生活に織り込まれなければならない。私たちは自分の歩む道にふりそそぐ一つ一つの光線を大切にして、神のご要求に従って生きるべきである。靈的に成長しなければならない。私たちは多くの祝福を失っている。……クリスチャン生活で前進しないからである。……

キリストの教会員は、イエスからの神聖な光線を集めて世の中で天に向かう輝かしい轍の跡を残しつつ、他の人々にその光を反映しなければならない。賢いおとめのように世に対してキリストの品性をあらわしつつ、手入れをして燃えている明かりを持っている者でなければならない。私たちはこの事以外のことで満足すべきではない。自分自身の義に満足したり、神のみ霊の深い感動がない状態で満足すべきではない。

キリストは「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」と仰せになる。この本当に無価値であるということが多くの者の働きの中にはつきりとあらわれている。なぜなら、これが自分の心にキリストの改変する力を感じていないという証拠であることを私たちは知っているからである。あなたは彼らの働きの一番上の枝から一番低い枝を見ても、葉以外は何も見出せない。神は私たちにもっと高い標準へ達するようにと望んでおられる。私たちがそのような靈的欠乏状態にいるのはみ心ではない。……

国がまだ新しかった時、アイオア州を訪問したことを思い出す。農夫が新田を耕しているのを私は見た。彼らは重いすきをもって深いうねをつくるために、大変な努力をしているのを私は見た。働く人々は自分たちの肉体の力を訓練することによって力強さと筋肉を得ているのに、私たちは気づいた。新しい分野に入って行って、人の心の新田を耕すのは、私たちの若者を力強くする。この働きは、彼らを神へもっと近づける。……彼らは困難を克服し、障害に打ち勝つことによって力と能力を自分のものとする。ビュー・アンド・ヘルド 1889年10月8日

たえず思いに神の真理をたくわえる

「また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」(ペテロ第二 1:4)

自分の思いに神の真理をたくわえるのは、神のすべての子にとって義務である。そして彼がこれをすればするほど、神の深い事柄を理解するために、ますます思いが力強く、鮮明になる。そして真理の原則が日々の生活に実践される時、彼はますます熱心にまた元気はつらつとなる。

人を祝福するのは靈的な生活である。神と調和している者は、たえず力を求めて神に頼る。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」神のみ旨に一致しようとたえず努力しながら、クリスチャン品性の完全に向かって、たゆまず前進し続けることが私たちの生涯の仕事でなければならない。ここ地上で始まったその努力は永遠にわたって続く。地上でなされた向上は、来世の生活に入る時私たちのものとなる。

キリストの柔和と純潔また愛にあずかる人々は、神にあって喜び、自分たちの周りにいるすべてのものに光と喜びをふりまく。私たちに永遠の命という賜物を得させるために、キリストが死なれたという思想は私たちの心にこの上なく真剣な、また熱烈な感謝の念を呼び起こし、私たちの唇からこれ以上ないほど熱狂的な賛美が出るのに十分である。神のみ約束は豊かで満ちあふれており、惜しめない。キリストの力強さのうちに、条件に従う者はだれでも、これらのすべての豊かな祝福を伴ったみ約束を自分自身のものとして請い願うことができる。そしてこのように、神の宝庫から豊かに供給していただくので、人は、人生の旅路において信心深い模範によって同胞を祝福し、創造主をほめたたえつつ、「主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ」る。私たちの救い主が、ご自分に従う者をわたしから離れては、あなたがたは何一つできない」ということを覚えさせることによって自己過信から守ろうとしておられる間、このお方は私たちを励ますために「わたしにつながっている人は……実を豊かに結ぶ」という尊い保証も彼らに語られた。ビュー・アッド・ハラド 1881年9月20日

神の武具をすべて身につける

「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。」(エペソ 6:13)

どのような状況のもとにあっても、キリストを信頼し続けよう。このお方が私たちにとってすべて、すなわち初めであり、終りであり、あらゆることにおいて最高でなければならない。だから、私たちが喜びや嬉しさを感じる時だけではなくいつでもこのお方をほめたたえるために舌を教育しよう。

私たちが他の人々にとって慰めや力となる言葉を語るができるように、神の尊いみ約束で、心を満たそう。このようにして、私たちは天のみ使いの言葉を学ぶことができる。もし私たちが忠実なら、このみ使いたちは永遠にわたって私たちの道連れとなるのである。私たちは日々、品性の完全を得るために前進しなければならない。そして目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めるなら、私たちは確かにそうなるのである。サタンの大きな力について話すのではなく、神の大いなる力について語ろう。……

あらゆる魂の中で二つの力が勝利を得ようと熱心に争っている。サタンに導かれている不信は私たちの力の源である方から、私たちを切り離そうと、その力を結集している。私たちの信仰の創始者であり、完成者であるキリストに導かれた信仰はその力を結集する。時々刻々、全宇宙の目の前でその戦いは進んでいる。これは、次々と起こる戦いであり、重要な質問はどちらが勝利を得るかということである。一人一人が自分自身のためにこの質問をしようと決心しなければならない。この戦いにおいては、すべての者が一方の側かあるいはもう一方の側で戦うことにより参加しなければならない。この争闘には休みがない。……私たちはこの争闘のために備えるよう強く勧められている。「主にあつて、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。」「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい」と、警告がくり返されている。

天と地における一切の権威を授けられている…お方が、ご自分を信頼する人々を助けるために来られる。エース・インストラクター 1901年1月10日

神は私たちのうちに働きかけて 神のよしとされるところをされる

「…恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:12, 13)

神と私たちとの関係は、両親と小さな子供たちの関係と同じである。天におられる神は、ご自分の民、ご自分の教会をちょうど愛情にみちた両親が自分の子供たちを見守るように、見守っておられる。そして私たちは、小さな子供たちと同じように思慮分別がないのである。なぜなら、私たちが神のみ足の跡を快く踏み従う意志を示す時、神が私たちに何を教えようとして待っておられるかを、実際には知り始めてもいないのに、自分がすべてのことを知っていると思いがちだからである。

私たちはひとりよがりという立場から降りてきて、小さな子供のように神のみ働きをつかむのだろうか。このお方から教え導いていただこうとしているのだろうか。私たちはよちよちと歩き始めたばかりである。そのうちもっとしつかりとした足どりとなるよう学ぶが、今はいつなときでも、つまずいたり、ころんだりしがちである。身分の最も高い者から最も低い者まで、私たちには一人一人無力な子供たちの弱さや困難と同じような、霊的弱さや困難がある。そしてこの未経験な子供たちが互いに頼りあうのではなく、両親に頼らなければならないように、私たちが自分の無力な魂が、どの人間にも頼るのではなく、救う力のあるお方にすがりつくべきであることを学ばなければならない。…

神は私たちが神を畏れつつ行動し、み前におののきつつ歩むようにと呼びかけておられる。「恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい」と仰せになる。

大能のお方の腕をつかみつつ、キリストが働かれた方法で働くかぎり、私たちは安全である。しかしそのみ腕をつかむ手をゆるめるやいなや、人間に頼り始め、私たちは大きな危険に陥る。今まさに、主は私たちが過去に到達していたよりも、もっと高い標準に到達するよう望んでおられる。毎日に私たちは民としてあなたがたはキリストにあって満たされている」と言われるようになるまで上へさらに上へと前進しなければならないのである。原稿 96、1902 年

幼な子らしいことを捨てる

「わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。」(コリント第一 13:11)

私たちは霊的な事柄における知識や経験で常に幼な子のままでいてはならない。キリストを受け入れたばかりの人の言葉で常に自分自身を表現するのではなく、祈りや励ましの言葉は私たちが真理において経験を積んでいくように知性においても成長しなければならない。10才の子供が6才の子供のような話し方をすると私たちは満足しない。そして円熟した年令に達している人のうちに子供っぽい思考力のあらわれを聞くのは何と心痛むことであろうか。人が年令を加えると私たちはその人の年令や機会に応じてそれにふさわしい知性を期待する。…しかし私たちは子供が年令を加えるに従って、それ相応に知性が発達するのを期待するのであれば、クリスチャンの成長をもまた恵みと経験のうちに見ることを期待すべきではないだろうか。

神が私たちに数多くの祝福と機会を与えてこられた。そして最後の大きい日が来ようとする時、また天が私たちに賜った助けという祝福を受けていたなら、自分たちが何に達し得たかを見るようになるであろう。自分たちがどれほど恵みのうちに成長することができたかを知り、神が見られるようにこのことを見るとき、キリストにあつて男女の満ちみちた徳の高さにまで成長するのに失敗することによって何を失ったのかを見て、私たちはもつと熱心であつたならと思うのである。ユース・インストラクター-1894年6月28日

神はあなたが未熟者のままでいることを望まれない。このお方はあなたが精神面の訓練やはつきりした識別力という面において地上で得ることのできるすべてをご自分の御業に必要としておられる。神はあなたがはしごの最上段に達して神の王国へ足を踏み入れるようにと望んでおられる。

主はあなたが至高者の息子娘として、また天の王の子として占める身分を理解するよう望んでおられる。ユース・インストラクター-1900年5月10日

キリストにあって成長

「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、…様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」(エペソ 4:14、15)

互いを弱めようと努力することほど、あなた方自身の感化力と立場を弱めるものはない。手紙 16,1886 年

たえず兄弟に対する信頼を深めなさい。なぜなら、あなたが悪いことを考える時、悪いことを語るからである。このようにしてあなたは自分自身を傷つけ、あなたが神にあって強くなければならない時に弱くなるのである。手紙 182,1901 年

他の人の行動を評価したり、その人々の失敗を批評する特権は私たちにはない。神は、私たちが他の人々の罪を負う者にはおられない。私たちがしなければならないのは自分自身についてである。自分自身の生活の中で悔い改めと改革の働きが、もっと徹底的になされればなされる程他の人を批評しようとしなくなる。私たちが他の人々のうちに見る欠点によって自分自身を評価する時、間違ったことを行う。神はそのようにはされない。すべての生活状況を理解され、クリスチャン品性を完成するために一人一人が持っていた祝福によって人を計られる。人が神とその真理についての知識を得るために持っていた機会を考慮される。神の律法を真に尊重する人は、自分の品性を他の人の品性と比べたりはしない。自分の生活を神の聖なる律法によって判断する。……

救い主は弟子たちへの教訓の中で悪の根絶という働きが、どれほど徹底的になされなければならないかを示しておられる。「もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して、捨てなさい」と仰せになる。……

私たちはクリスチャン品性の完全を目ざしてたえず前進しなければならない。これ以上「さまざまな教えの風に吹きまわされたり、もてあそばれたりする子供でなく、愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達する」ようになるためである。ユース・インストラクター 1908 年 2 月 11 日

成長はたえまなく続く働きである。教会への証 4 巻 367

私たちの信仰は大いに成長する

「兄弟たちよ。わたしたちは、いつもあなたがたのことを神に感謝せずにはおられない。またそうするのが当然である。それは、あなたがたの信仰が大いに成長し」
(テサロニケ第二 1:3)

真理を信じる人々にとって、キリスト・イエスにあつて男女の満ちみちた徳の高さにまで成長するためにたえず向上し続けるということが絶対に必要である。逆戻りしたり、無関心になる時間はない。一人一人が神の事柄で生きた経験を持って、自分自身のうちに深く根ざす必要がある。あらゆる人の働きと品性を試みるその時に神にゆるぎのない信頼をしつつ、よく抵抗し、完全に勝ち抜くために、信仰に堅く根ざしなさい。あなたが神のみ言葉の深い事柄を正しく理解して力から力へと進んで行くことができるまで霊的な事柄においてあなたの能力を訓練しなさい。

真理の光を持っていると主張してはいるが、少しも進歩しない人々がたくさんいる。あらゆる能力を持っているにもかかわらず、彼らには生きた経験がないのである。…神のみ言葉は、熱心に求める人々に霊的解放と啓発を提供する。神のみ約束を受け入れ、生きた信仰をもってそのみ約束を実行する人々は、自分たちの生活に天の光を持つ。彼らは命の泉の水を飲み、自分自身の魂を新たにした水源へ他の人々を導く。……

疑いという実は望ましいものではない。ああ、あなたの周りを見回して、悪者…に荒らされた損害がどれほど大きいかを見なさい。誤りと偽りと異端が惑わされた人々の心を取りこにしている。何世紀にもわたって敵は成功を重ねつつ、その試みをくり返してきた。暗闇は消えてしまった生命の悲しい記録にもかかわらず、蛾が火に集まってくるように、人々は自らをわなにかかろうとしている。破滅を招く欺きの中へ飛び込んで行く。……「天と地は消え去る」しかし「主の言葉はとこしえに残る。」そして、そのみ言葉のうちにあるゆるがない信仰だけが終りの日の危難を通して耐えるただ一つの信仰である。ビュー・アンド・ワルト 1888年1月10日

豊かにいただくよう励む

「だから、あなたがたも、霊の賜物を熱心に求めている以上は、教会の徳を高めるために、それを豊かにいただくように励むがよい。」(コリント第一 14:12)

多大の労苦なしに秀でることはないということを、子供の時から青年たちに学ばせよう。名声を切望する事は何の益にもならない。若い友よ、頂上には静かに立っていたり、そこに行きたいと願うだけで到達できるわけではない。あなたは一度に一步ずつ、おそらくはゆつくりと前進し、得た一步は維持しながら歩むことによつてのみ、自分の目標を手に入れることができる。アルプスへ登ろうとする人は精力的で、根気強い人なのである。青年はみな、できるかぎり今ある機会を活用して、自分のタラントを最大限に活かすべきである。これをしようとする人は道徳的なまた知的な能力において、ほとんどどのような高さにまでも到達できる。しかしその人は勇敢で断固たる精神を持つていなければならない。快樂に対する誘いの声に耳を閉じる必要があり、若い仲間のそそのかしをたびたび拒まなければならない。彼は自分の目的からわずかでもそれることのないよう、たえず見張っていないなければならない。…

耕していない畑を放っておくと、いばらや野バラが生え育つ。あなたは醜い有害な雑草の上に、美しい草花やすぐれた灌木があらわれてくるのを見ることは決してない。利用する価値があり、また美しい植物が綿密な栽培を必要とする一方で、価値のない野バラの茂みは、配慮や世話がなくてもうっそうとしげる。私たちの青年もこれと同じようなものである。もしも正しい習慣が形造られ、正しい原則が定着するとすれば、そこにはなすべき熱心な働きがあるはずである。悪い習慣が正されるには、その任務を果すために勤勉と忍耐が要求されている。……悪い影響力に抵抗するよりは、これに屈するほうがはるかにたやすい。ビュー・ア・ポイント・ワールド 1881年9月13日

日々より良い人になり、それによつて自分の上に置かれた責任を果すことができるために、自分の品性に不可欠な、向上することの大切さがわかるまでは、彼らは失われる側にいるのである。世界総会冊子 1891年3月20日

恵みと自立、そして克己のうちに成長しなさい。日々あなたが天の宮廷で王家の人々と一つになる準備をしていなさい。原稿 99,1902年

キリストの満ちみちた徳の高さに至る

「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ 4:13)

クリスチャン生活で前進する時、あなたはたえず、キリストの満ちみちた徳の高さという基準にまで成長し続けるのである。自分の経験の中で、人知をはるかに越えた神の愛の長さ、広さ、深さ、高さがどのようなものであるかを証し続けるのである。あなたは自分の無価値さを感じて、品性の完全を主張したい気持ちになるのではなく、ただ自分の贖い主の完全を賛美したい気持ちになるのである。イエスを知る知識におけるあなたの経験が、もっと徹底的にまた豊かになれなくなるほど自己を見る見方はますますへりくだるのである。……

神をこの上なく愛し、自分自身のように隣人を愛するということが真の聖化である。聖書の改心は、たえまない不変の活動へと導き、あらゆる利己心、自己称揚、神聖についてのあらゆる自慢げな要求から解き放つ。もしあなたが神へと真に改心しているなら、真理の側に力強く効果的な影響力を及ぼす。クリスチャンであるということが何を意味するのかについての高度な知識は、あなたが何処へ行っても祝福された者とする。あなたがタラントを一つか二つ、あるいは五つ持っているとしても、それはみなあなたを信頼して委ねられたお方の奉仕に捧げられるであろう。…

神はあなたの光が明るく輝くことによって、あなたの良い言葉や働きが人々の称賛をあなた自身に帰することになるよう意図してはおられない。そうではなく万物の造り主に栄光が帰され、この方が高められるのである。その生涯で、イエスは人々に品性の型をお与えになった。世は、自分の基準にしたがって、このお方を形造るには、何の力もなかったのである。その感化力はすべて振り捨てられた。ビュー・アンド・ワールド 1888年10月16日

あなたは静かに立っていることはできない。前進か後退のどちらかをしなければならぬ。…霊的な健康があるところには成長がある。神の子はキリストにある男女の満ちみちた徳の高さにまで成長する。その向上に限りはない。教会への証 5 巻 264、265

主はあしたの光のように必ず現れいで

「わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ることを求めよう。主はあしたの光のように必ず現われいで」（ホセア 6:3）

万物の終りは近い。私たちのしてきた事が私たちの働きに終止符を打つよう許してはならない。私たちの救いの将は「前進せよ、夜が来る、するとだれも働けなくなる」と仰せになる。私たちの有用性について常に前進する必要がある。私たちの生活はつねにキリストのみ心のもとにしなければならない。

祈りは天が定められた成功の方法である。人と人との間の嘆願や請願、また懇願は人々を動かし、国家の事情を支配する一部分として役割を果たす。しかし祈りは天を動かす。祈りに対する答えとして来るその力だけが、人を天の知恵にあって賢くし、平和のぎずなどで共に結びつけられて、み霊と一致して働くことができるようにする。祈りと信仰と神への信頼は、人間の計算によっては無としか思えない神の力をもたらす。

各時代にわたって、神は人間に神の啓示を与えてこられた。こうすることによって、人の思いに、恵みについての教理を徐々に明らかにするという目的を神が成就することがおできになるためである。真理を分け与えるという神の方法は「主はあしたの光のように必ず現れいで」という聖句によって描写されている。神が啓発することのできる場所に自分の身を置く者は、いわば明け方の部分的に薄暗い状態から、真昼のさんさんと降り注ぐ輝きにまで進歩する。太陽が憐れみと愛の任務を受けて出て行くように、金色に輝く日の光が天の天蓋にあふれ、森や山を飾り、夜の暗闇を一掃することによって、世界を目覚めさせるように、そのようにキリストに従う者は、愛の伝道をするために出て行く。オーストラリア・エボ会議記録 1904年 11月1日

自分がキリスト・イエスにあって、満ちみちた徳の高さにまで成長することができるために、断固として無条件に自分自身をキリストの側に置くことは、すべての若者の義務である。そうすれば、彼は神の書に人として書き込まれ、人間の評価で人であるだけでなく、神の御目にも人となるのである。ユース・インストラクター 1894年 4月26日

たえずキリストを見つめなければならない

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ…」(ヘブル 12:2)

青年の多くは不満を抱いている。それは彼らには何か大きな働きをする能力がなかったり、何か素晴らしいことをすることができるはずのタラントを熱望するからではなくて、自分がむなしい望みに時間を費やしている間、人生に失敗しているからである。彼らは、自分が足を踏み入れている人生の道で、愛の行為をするのが上手になる可能性のあった機会を見過ごしている。……

ああ、あなたの平安に役立ち、あなたの愛情と思想、また時間と奉仕をキリストに捧げることをあなたが今よく考えると良いのだが。サタンは、あなたの意志を自分の意志に屈服させ、あなたをキリストのご計画に敵対する自分の手下にしようと全力を尽くしている。それによってイエスに、あなたを統治していただくことを、あなたが拒むことができるためである。あなたは「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである」ことを知っているけれども、サタンは……あなたをキリストから引き離そうとする。それによって、あなたが他の人々を離れさせるサタンの代理人となり、このようにして神のご計画を挫折させることができるからである。サタンは偽りの父であり、あなたをうそというひもで、自分に仕えるために結びつけようと、偽りという網を編む。あなたが知的であればあるほど、また魅力的であればあるほど、サタンはあなたが自分のタラントを彼の足元に置いて、他の人々をサタンの黒い旗のもとに誘い込むことで彼の目的を果す手助けをするようにと説得できるよう、ますます熱心に働く。もしサタンがただ人の思いを夢中にし続けることができるなら、彼はそれをする。パウロは「あなたがたは真理に従うべきではないと、いったいだれがあなたがたを惑わしたのか」と問うている。サタンは惑わす者であり、キリストが魂から追い出され、彼自身がその座につくことができるようにと働いてきた。

息子、娘たちよ、夢中にさせる者と悪者の関係を断つようにと、あなた方に懇願する。あなた方の避け所としてイエスの所に避難して、永遠の命をつかみなさい。
ユース・インストラクター 1893年3月2日

あなたは、自分の信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げつつ、神に近づき続けようと日々決心しなさい。ユース・インストラクター 1894年7月19日

私たちの経験は永遠に及ぶ

「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。」(コリント第一 13:12)

地上での終生の仕事は永遠の生命への準備であり、地上で始まった教育はこの世で完成するものではない。それは永遠に続き、たえず進歩し、決して終ることがない。贖罪の計画の中にある神の愛と知恵がますます完全に分ると共に、救い主がその子を生ける水の源に導き、豊かな知識をお与えになるのである。そして、神の驚くべきみわざ、すなわち宇宙を創造し、支えておられる神の力の証拠が日毎に新しい美しさをもって理解され、みくらから輝きでる光に照らされて、不思議であったことも明瞭となり、今までどうしてもわからなかったことが簡単な事柄であったのを見て、人間は驚きに満たされる。私たちは今は鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしそのときには、顔と顔とを合わせて見るのである。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかし、そのときには私たちが完全に知られているように完全に知るのである。ミストリー・オブ・ヒーリング p449、450

キリストの個人的な教えのもとに、永遠にわたって学ぶということがどういうことを意味するのか考えてみなさい。この猶予の期間中に、争闘と誘惑のただなかで、私たちは神の命で計る命を得る準備となる品性を形造らなければならない。手紙 264,1903 年

私たちは神の栄光にだけ目を向けるべきである。そうすれば、私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストについての知識と恵みのうちに成長する。私たちが神の知恵を熱心にまたたゆまず求めれば求めるほどますます真理に堅く定着する。ユース・インストラクター 1894 年 6月 28日

キリストを見つめることにより、この方について語ることにより、またそのご品性の麗しさを見つめることによって、私たちは変えられる。栄光から栄光へと変えられるのである。そして栄光とは何であろうか。品性である。だから品性から品性へと変えられるのである。このようにして私たちは、イエスを見つめることによって続く、清めの働きがあることを知る。原稿 10,1894 年

キリストを見上げる、 すなわちそのみ姿に同化する

「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた。」(ヨハネ 1:14)

国々や個人個人の強さは、彼らが無敵にするように思える機会や外見にあるのではない。彼らの自慢する偉大さにあるのではないのである。彼らを偉大にし、強くすることのできる唯一のものは、神の力である。神のご目的に対する態度によって彼らは自分自身で自分の運命を決定しているのである。

人類の歴史は人の業績に、また戦闘での勝利や世的に偉大になり、成功することと関連がある。神の歴史は、天が人を見る見方で人について記述する。神の記録には、その人の功績はすべて、神のご要求に対する従順にあることがわかる。…

各世紀にはその役割がある。毎瞬間もその役割がある。世紀も一瞬一瞬も永遠に過ぎて行く。…神はまだ地上の国々を支配しておられる。大都市を見ておられる。その目は人の子らの行いをご覧になり、また試しておられる。私たちにとっては過去の神ではなく、現在の神であるべきである。神はほかならぬすめが地に落ちるのを、葉が木から散るのを、そして王が退位させられるのを見ておられる。すべては無限のお方の支配のもとにあり、あらゆることが変化している。町々や国々は、神のみ手のうちにある下げ振りによって計られる存在である。神は決して間違うことなく正しく読み取られる。地上のあらゆることは不安定であるが真理は永遠にとどまる。

世の目には、神に仕える人々は弱いように見えるかもしれない。彼らは見たところ大波の下に沈んでいるかもしれないが、次の大波で港に近づいているのが見られるのである。「わたしは彼らに永遠の命を与える」と主は仰せになる。「そして誰もわたしの手から彼らを奪うことはできない」と。諸王は打ち破られ、国民は移されるであろうが、信仰を通して神のご目的に自分自身をつないでいる魂は、永遠にとどまる。ユース・インストラクター 1903年9月29日

あなたの目をイエスにじっと注ぎなさい。見つめることによってあなたはそのみ姿に同化する。オーストラリア・エボラ会議記録 1904年11月1日

キリストの栄光をひと目見ることが切望する

「どうぞあなたの栄光をわたしにお示してください。」(出エジプト 33:18)

神の品性について一段と明瞭な啓示を求めて、ますます高く進むことは私たちの特権である。モーセは「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください」と祈ったとき、神は彼を譴責なさらず、その祈りを聞き入れ、「わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう」とそのしもべに言われた。

頭脳を鈍らせ、理解力を弱めるのは罪であって、罪が私たちの心から一掃されるとき、イエス・キリストの顔にある神の栄光を知る知識の光は神の言葉を照らし、自然界から反射を受け「あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神」をいよいよ完全に示すのである。

私たちは神の光によって光を見、ついに頭脳も心も霊も神のきよい姿にまで変化させられるのである。

こうして神のみ言葉の神聖な確証をつかむ人には驚くべきことが可能となる。その前には真理の広大な世界が開け大いなる力の源泉がわき、輝かしい事実が出現し、聖書の中にあるなどと思われもしなかった特権や義務がわかるようになる。へりくだって服従の道を歩み、神のみ心を果す者はすべて、いよいよ神のみ言葉を知るようになる。

神によって感動を受けた、尊い信仰は力と高尚な品性を与える。神の恵みとあわれみと愛を瞑想するとき、真理はいよいよ鮮明に理解され、心の純潔と思想の明瞭を望む気持ちはさらに高まり、きよめられる。きよい思想の純潔な雰囲気にある魂は神のみ言葉を研究し、神と交わり、それによって変化する。真理は非常に大きく、かつ遠大で深く、広く、自分が見えなくなるほどである。心は和らげられ、柔和になり、謙遜で愛を持つようになる。そしてきよい服従によって生来の力も増大する。ミズリー・オブ・ヒーリング p448, 449

賛美で満たされる

「わたしは常に主をほめまつる。そのさんびはわたしの口に絶えない。」(詩篇 34:1)

私たちは、キリストの一生について毎日瞑想する時間を持つがよい。イエスの一生の要点を一つ一つとらえ、各場面ごとに最後の場面を想像のうちにとらえるべきである。このようにして、私たちのために払われたイエスの大犠牲を心に思いめぐらすとき、キリストに対する私たちの信頼はもっと堅固になり、私たちの愛はめざまげさせられ、私たちはもっと深くキリストの精神を吹きこまれる。

人々と交わるときに、私たちはお互いに対して祝福となることができる。もし私たちがキリストのものなら、キリストについて思うことが一番楽しい思いである。私たちはキリストについて語ることを好む。そしてお互いにキリストの愛について語る時、私たちの心は天来の感化によってやわらげられる。キリストの品性の美しさを見つめることによって、私たちは、「栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく」のである。各時代の希望上巻 80

主イエスは…あなたを愛しておられる。もしこの方の愛を疑うのなら、カルバリーを見なさい。十字架から反映する光は舌が語ることでできないその愛の大きさをあなたに示している。……

神の恵みはあなたを毎瞬間包んでいる。だから、あなたの祝福が日々どこからどのようにして来るのかを考えることは、あなたのためになる。神の尊い祝福があなたの心に感謝の気持ちを起させるように!あなたは神からの祝福、また自分に示された絶え間ない慈愛を数えあげることはできない。それらは心身をさわやかにする雨のしずくのように、おびたしいからである。恵みの雲があなたの上にかかっており、あなたに降り注ぐ準備ができています。あなたが救いという貴重な賜物を感謝するなら、日毎の元気回復、またイエスの守りと愛に気づき、平安の道に導かれるであろう。…

信仰の目によって、愛をもってあなたの上にかがみ込んでおられるイエスを見なさい。……このお方は、あなたがご自分の臨在のうちに住むこと、また永遠の生命と栄光の冠を持つことを望んでおられる。ユース・インストラクター-1887年1月5日

キリストのようになる

「父よ、あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さい、わたしに賜った栄光を、彼らに見させて下さい。」(ヨハネ 17:24)

自分の働きの中で、私たちは落胆を多く経験する。しかし、私たちはその落胆をくよくよ考えることによって、少しも力を得ることはないのである。見つめることによって、私たちは変えられる。私たちが信仰によってイエスを見つめる時、そのみ姿が心に刻み込まれる。私たちは品性が改変されるのである。手紙 134, 1903 年

理論に熱心になりすぎて、救い主の模範の力を見失っている者が大勢いる。謙遜な自己否定の働き人であるキリストを見失ってしまう。必要なことはイエスをながめることであって、日々、私たちは新たにイエスの存在を知る必要がある。ミニストリー・オブ・ヒーリング 440

救い主の品性の完全さをはっきり知る時に、私たちは全く変えられ、主の純潔なかたちにかたどって新しくされることを願うのである。私たちが神を知れば知るほど、自分の品性の理想は高くなり、主のみかたちを反映したいとの願いはますます熱烈になる。魂が神に達しようとする時、神の要素と人間が結合されるのである。祝福の山 23

人が贖い主の生涯とその経歴をよく分つてくると、自分自身の重大な欠陥を発見する。彼は、最愛の主の様子、また精神を捕える。……私たちがイエスの生涯を真似るといえるのは、この方から目をそらすことによるのではなく、この方について語り、その完全をよくよく考え、趣味を精錬し、品性を高めることを求め、信仰と愛を通して努力し、完全な型であるお方に近づくために、熱心な辛抱強い努力をすることによるのである。キリストについての知識、すなわちその言葉、習慣、その教えの教訓を得ることによって、私たちは、自分が綿密に研究したそのご品性の徳を取り入れ、自分が感嘆しているその精神を吹き込まれるようになる。イエスは私たちにとって、「万人にぬきんで」「ことごとく麗しい」お方となる。ビュー・アード・ハルド 1887年3月15日

Good Way Series 研究 3-6



キリストが 戸をたたいておられる (VI)

2. どのように違いを認めるか

真理全体を自分自身で調べようとせず、他人が自分たちに語ることを盲目的に受け入れがちの人々は、次の二つの方法によって欺かれる可能性があります。(1) 本物の代わりに偽物を受け入れることによって、(2) 本物を偽物として拒むことによって。しかし、この問題においてだれかに代わってもらう必要はありません。なぜなら、キリストはご自分に従う人々にこの欺瞞から守るための規則を与えて下さっているからです。「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」(マタイ 7:20)。偏見を持たず、正直に、目を開いて、また聖書と証の書という光の中で実を徹底的に吟味するとき、まじめな信徒は区別を認めることができます。

a) 偽りの改革者の特徴

地球の歴史の終わりが近づくとつれて、私たちの周りで危機や危険が濃くなっている。

単なる敬虔さの告白は役に立たない。私たちが最も深刻な状況にある邪悪を見分ける霊的な視力を持つためには、神との生きたつながりがなければならない。それは信仰を公言する人々を通して、巧みで秘密のやり方が私たちの中に忍び込んでいる。最大の罪が自分は聖化されていると告白し、罪を犯すことができないと主張する人々を通してもちこまれている。それでいながら、この階級の多くは日々罪を犯し、心と命において墮落している。そのような人たちは自己満足で自己義であり、自分自身の正義の基準を作り、聖書の基準をまったく満たしていない。彼らは高尚な主張をしているにもかかわらず、約束の契約はまっ

たく知らないのである。...

「真理を不義のうちに保持し、その信仰を公言しながら、矛盾した生活によって毎日真理を傷つける者は、サタンへの奉仕に自らを明け渡し、魂を破滅に導いている。この種類の人々は墮落天使と交わり、人々の思いの支配力を得るために彼らの助けを受けている。... 異端と放縦には常に魅惑的な力がある。思いは非常に惑わされているため、知的に論じることができず、幻想が絶えず思いを純粹さから導いていく。靈的な視力は曇りはじめ、それまで道徳的にしみのなかったひとと人が、光の使命者だと公言するサタンの手先の妄想的な詭弁の下で混乱する。この妄想こそが、これらの手先たちに力を与えるのである。もし彼らが大胆に出てきて、公然と前進すれば、彼らは一瞬のためらいもなく、はねつけられるであろう。しかし、彼らはまず同情を勝ち取り、神聖で自己犠牲的な神の人としての信頼を得るために働くのである。その後、神の特別な使命者として、神の律法を無効にしようと試みることによって、魂を正義の道から引き離すという巧みな仕事を開始するのである。....

新しい光を持っていると公言し、改革者であると主張する人々は、現代に存在する異端を確信し、諸教会の靈的狀態に満足していない特定の階級に対して大きな影響力を持つことになる。真実で正直な心をもって、彼らはより良い変化、より高い標準に達しようとしている。もしキリストの忠実な僕たちが純粹で混じりけのない真理をこの階級に提示するなら、彼らはそれを受け入れ、それに従うことによって自分自身を清めるであろう。しかし、サタンは常に警戒し、これらの探求する魂たちのあとをつける。サタンが光の天使を装ってキリストのもとにきたように、改革者として高らかに公言する者が彼らのところにやって来て、彼らを正しい道からさらに引き離すのである。」(教会への証 5 卷 139-144)。

ここにさらにいくつかの特徴があります。

彼らは、キリストが働いておられる方針に沿って働く代わりに、主が築き上げてきたものを取り壊すことを支持します(牧師への証 36)。

彼らは主の日に立つよう民を整えることに協力する代わりに、兄弟たちを告発する者となります(牧師への証 37)。

彼らは破壊者として行動し、自分たちと調和しない人々を破滅させようとします(教会への証 6 卷 151)。

彼らは偏見(教会への証 4 卷 569)、非難的で失礼で横暴な精神を示します。

彼らは利己的な方法を用います（教会への証 6 巻 151）。彼らは先頭に立つことを望みます。彼らはその過程で自己高揚を表します（教会への証 1 巻 122）。

彼らは、自分たちが真理だとみなすものに個性と影響力を与えるためには、不当な自由をとり、不名誉な手段を利用します（牧師への証 33）。

彼らには誉や高潔という高い自覚がありません（牧師への証 42）。

彼らは基本的な真理を無視し、本質的でない点に留まります（福音宣伝者 313）。

彼らは新しく驚くような理論を提唱します（牧師への証 54）。

彼らは組織に反対します（牧師への証 53）。

彼らは、あたかもキリストが祈った一致が必要ないかのように振る舞います。彼らは自分自身の独立した意見に従って行動します。彼らは兄弟たちとの相談を拒否します。彼らは自分の個人的な判断が最高のものであると考えます。彼らは心の均衡が崩れるまで、自分なりの方法で突き進みます（牧師への証 55、56；患難から栄光へ上巻 175）。彼らは自ら任命した使命者です（初代文集 189-194）。

b) 真の改革者の特徴

前に述べた特徴 (SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 4 巻 1149-1151) に加えて、さらにいくつかの顕著な区別があります。

「すべての真の改革は、第三天使のメッセージの働きの中に場所を占めている」（教会への証 6 巻 110）。真の改革は神の働きのあらゆる分野で必要です（教会への証 6 巻 291）。

それは、悔い改め（各時代の希望中巻 377）、罪の告白（教会への証 5 巻 640）、祈りの精神（教会への証 8 巻 251）、自己否定の伝道活動（教会への証 6 巻 401）と密接に関連しています。

それは内側だけでなく外側にもなければなりません（家庭の教育 35）。

それは魂のきよめから始まります（ミストリー・オブ・ヒーリング 155）。

それは家庭（家庭の教育 489）、両親（ミストリー・オブ・ヒーリング 103；教会への証 6 巻 119）、そして牧師（教会への証 1 巻 469；牧師への証 145）からも始まらなければなりません。

それは真理を実生活にもちこみます（教会への証 6 巻 401）。

それはラオデキヤのメッセージ(教会への証 1 巻 186、187) によって起こされ、教会の中にふるいを引き起こします(初代文集 438)。

その目的は、体、心、魂の最高の発達を確保することです(ミニストリー・オブ・ヒーリング 118)。

その基盤は聖書(各時代の争闘下巻 360) であり、その基礎は神の律法(教会への証 7 巻 139) です。

これは漸進的な働きです(教会への証 2 巻 594-597)。

慰め時の条件として、後の雨が降る前に起こらなければなりません(初代文集 149)。

それは敵によって誤り伝えられます。「神のみわざを推し進めるために召された人々の働きは、ことごとく疑惑の目で見られたのである。また、すべての行為は、ねたみとあらさがしの精神をもった人々に悪口を浴びせられた。ルーテル、ウエスレー、また他の改革者の時代においても、このとおりであった。これは今日も同様である。」(人類のあけぼの上巻 489)

が知っていることは、ここにとてもめずらしい生き物が優しく、優雅な声で彼女に話しかけているということだけでした。

するとへびは言いました。「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。

「はい」とエバは無邪気に「その通りです」と答えました。「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないから、と神は言われました」。

「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう」まるでそんなことは起こり得ないともいうかのようにへびは冗談かのように言いました。奇妙です！エバはそう思ったに違いありません。この生き物は実は神さまに反抗している！なんと大胆なんでしょう！それは正しくありません。

彼女はその場所から逃げて、何が起こったのかをアダムと神さまに告げるべきでした。しかし彼女はそうしませんでした。彼女はそこに居続けました。彼女は聞きました。そしてここで彼女は最初の間違いを犯しました。

そして、ああ、そこからなんと多くの悲しみが生じたことでしょうか！悪と手を結ぶとはなんと大きな代償を払わなければならないのでしょうか！

ナスと大葉の炒め物

■材料

ナス	2本
大葉	3～4枚
生姜	半カケ
塩	小さじ1/2
油	小さじ1
醤油	小さじ1
味噌	小さじ1/2
野菜の顆粒だし	小さじ1/2
砂糖	小さじ1
レモン汁	小さじ1/2
片栗粉	大さじ1

■作り方

1. ナスはへたを取ってたて4等分にしてそれを半分に斜め切りにして8等分にする。
2. それをボールに塩小半分を入れた水に5分ほど浸し、軽く絞っておく。
3. そこに片栗粉をまぶしておく。
4. フライパンを中火にかけそこへ油小1を入れて熱し、ナスを入れて全体に焼き色がつくまで強火で30秒ほどで炒める。
5. それを皿に一旦戻して、そのフライパンに生姜の千切りを入れてしばらく炒めたら、そこへ醤油、味噌を加えてなじませて、大葉の千切りを入れてしんなりするまで炒める。
6. そこへナスをもどして全体にからませたら、野菜だしの素と砂糖を入れてなじませる。
7. そして最後にレモン汁を少々たらして全体をませあわせてできあがり。

油少なめで作るヘルシーなナスと大葉の炒め物です。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第6話 最初のあやまち(II)

エバがもう一度美しい「命の木」を見ようとして振り返った時、だれかが彼女に話しかけたので、彼女は驚きました。

それはだれだったのでしょうか？今まで彼女が聞いていたのは神さまの声とアダムの声だけでした。今、ほかのだれかが話しています。彼女は驚いてあちこち見渡しましたが、だれも見えませんでした。その時、彼女はその声がへびからのものであることに気がつきました。

なんと優れたものなのでしょうか！動物が話すことができるなんて！彼女はもう一度話すことができるのかと待っていました。



その声はとても友好的で心地よかったので、彼女の恐れはなくなりました。結局のところ、たとえそれがただのへびだったとしても、話し相手がいるのは良いことでした。

このへびはだれだったのでしょうか？なぜ話をするこ

とができたのでしょうか？

聖書はわたしたちに「すなわち悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへび」と述べています。初めは光の天使ルシファーとして知られ、彼はかつて天の天使たちの指揮者でした。しかし、彼は神さまに反逆し、天から追放されたのでした。そして人間の幸福のための神さまの計画を台無しにして、神さまに復讐するためにこの地球に来たのでした。

もちろん、エバはその時、これらすべてのことを知りませんでした。もし知っていたなら、彼女はきっと彼の言うことを聞かなかったでしょう。彼女

(43 ページに続く)